

デュースブルクエッセン大学での研究

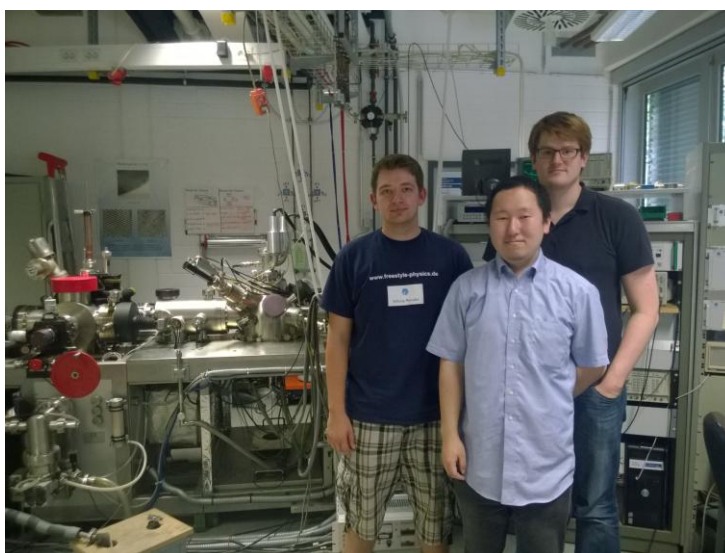
物理学専攻 博士課程 2年 福居直哉

2014年4月24日から7月21日にかけての3カ月弱、ドイツ、デュースブルクにあるデュースブルクエッセン大学 Möller 研究室に滞在し、走査トンネルポテンショメトリ(STP)のプロジェクトグループに参加させていただきました。測定した系は筆者の研究テーマと密接に関係しており、お互いに情報を交換するなど非常に有意義な研究生活を過ごせました。

いつもとは違う研究をすることでいつもと違う1日の生活を過ごすことになりました。日本では電気伝導実験をしているため装置につきっきりになるのですが、STP測定ではある程度安定すれば必ずしもつきっきりである必要はありません。その間に同僚と実験結果などを議論したり、文献をあさったり、ティータイムを過ごしたりしました。

この滞在中に得られた実験データという観点から見れば3カ月という期間はそれほど長いものではありませんでしたが、同僚との議論を通して様々な知見が得られましたし、文化交流という点でも多くの物が得られたと思います。反省点としては住居の準備を抜かりなくすることと言語の勉強をもう少し早めに始めるべきだったということが挙げられます。

このような貴重な体験をサポートしていただいたALPS関係者の皆様、受け入れ先のMöller研究室の皆様、そのほかの現地の皆様に感謝申し上げます。



同僚と装置とともに。左から Paul、筆者、Sebastian。